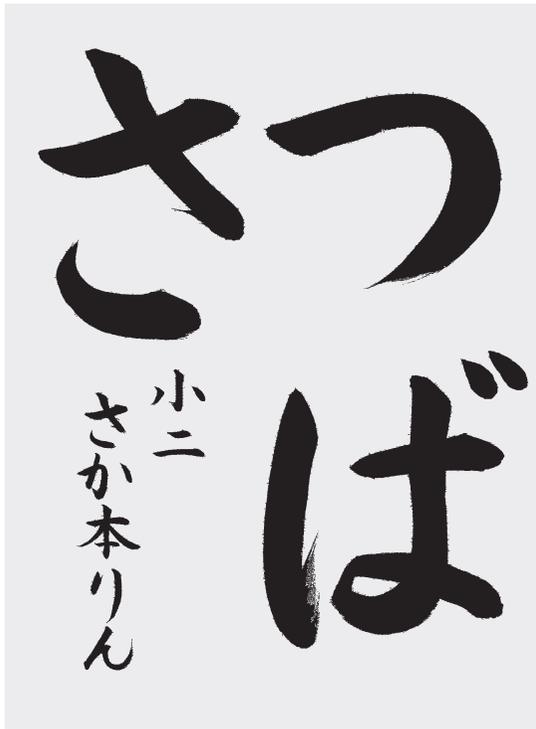


〔12月4日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。  
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本



大平 邑峰 先生

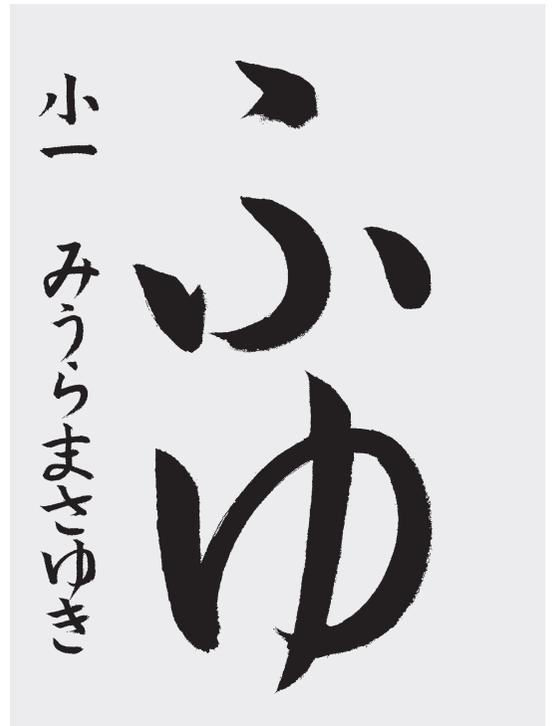
幼・小学1年参考手本



名越 蒼竹 先生



川村 美泉 先生



前田 龍雲 先生

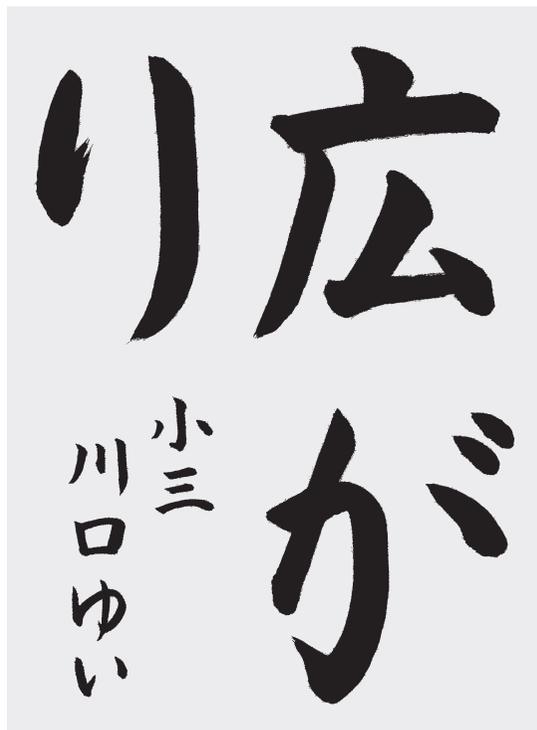
〔12月4日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

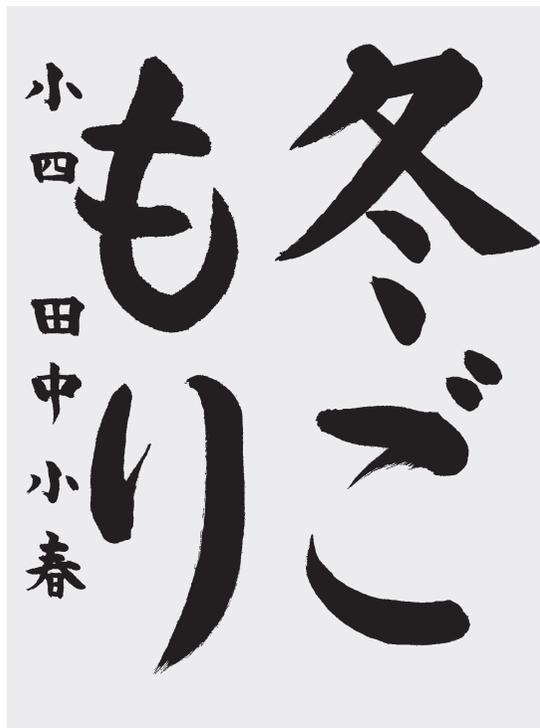


後藤大峰先生

小学3年参考手本



佐藤菜扇先生



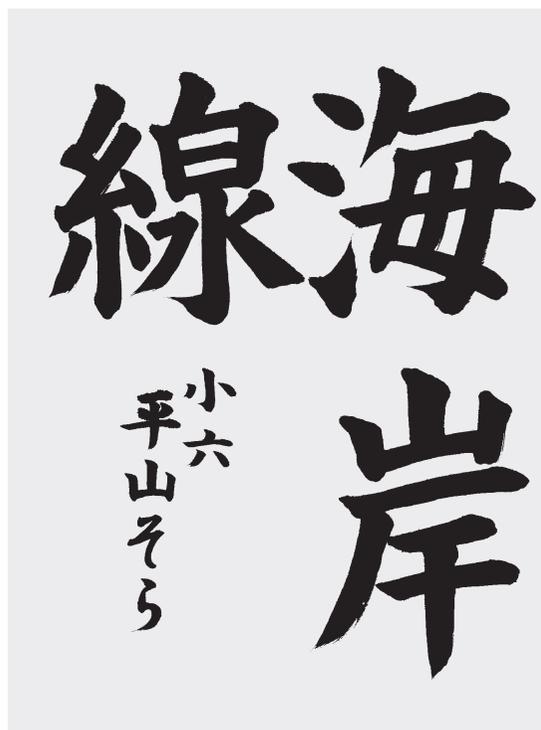
三浦鄭街先生



小林琴水先生

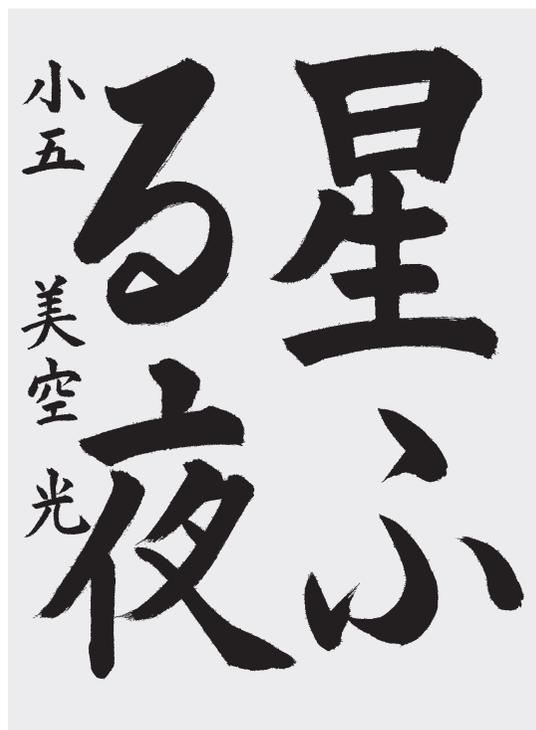
〔12月4日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

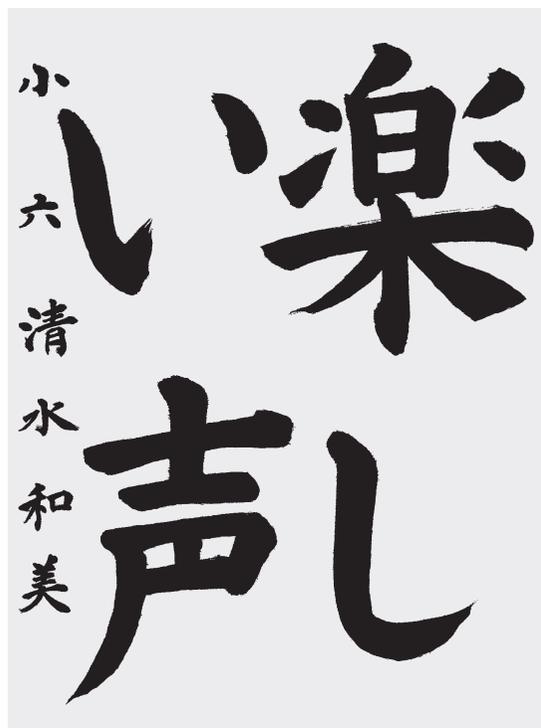


千葉蒼玄先生

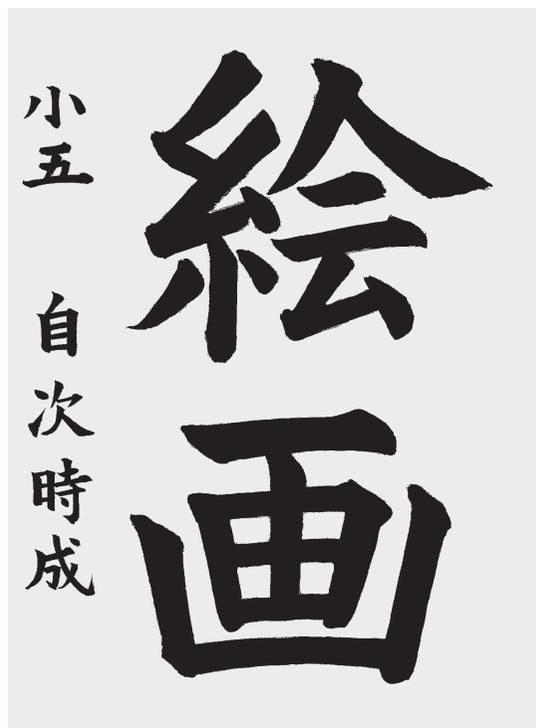
小学5年参考手本



種谷萬城先生



辻元大雲先生



広瀬舟雲先生

〔12月4日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



半田藤扇先生



片岡豪峰先生

発展〔中学生〕

●有名な古典の名跡に挑戦してみよう



蘭亭序  
らんていじよ

(中国・東晋時代)  
王羲之  
おうぎし



小竹石雲先生

中国の歴史上の人物で一番書が上手といわれている人が王羲之です。その中でも代表作がこの蘭亭序です。筆脈に注目して下さい。

※この課題は行書で書くこと。

# 毛筆参考手本解説(1)

1年

つながる気持ちで

ま とめる  
 幾幾きき

き(ヨ)き(明)き(教)

ふゆ(ヨ)ふゆ(明)ふゆ(教)  
 不不ふふ  
 由由ゆゆ

2年

はらう

つばさ(ヨ)つばさ(明)  
 川川つつ  
 波波はは  
 左左ささ

つばさ(教)

かもめ(ヨ)かもめ(明)  
 かもめ(教)

3年

広 はらう  
 が

ひつじゅん  
 一广広広

広がり(ヨ)広がり(明)  
 広がり(教)

4年

千歩 はらう

許容 千の止め 少 止め

筆順 一 二 千

千歩(ヨ)千歩(明)千歩(教)  
 左右の払いの中に

冬ごもり

字源 乙 コ こ 毛 も も  
 利あり

筆順  
 ノク 冬冬冬冬  
 冬ごもり(ヨ)冬ごもり(明)  
 冬ごもり(教)

5年

星ふる夜

筆順  
 口 日 巨 早 早 星  
 一 一 一 一 一 一 一 一

字源 不 不 不 不 不 留 留 留 留 留  
 星ふる夜(ヨ)星ふる夜(明)  
 星ふる夜(教)

絵画 内側に向ける

許容 へ ね  
 止め 方向 筆順  
 止め はなす  
 内側に向ける

筆順  
 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸  
 一 一 一 一 一 一 一 一  
 絵画(ヨ)絵画(明)絵画(教)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。  
 ゴシック体(ヨ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

# 毛筆参考手本解説(2)

6年

中心  
海 岸  
線

〈筆順〉

シ 江 江 海 海 海

山 山 山 岸 岸 岸

糸 糸 糸 糸 糸 糸 線 線 線

海岸線(ヨ) 海岸線(明)  
海岸線(教)

〈許容〉

干 払い

はね

方向・筆順

はなす

白 止め

水

中学

晴 耕  
雨 読

許容で書いています

教科書体

晴

はね 止め 方向

晴耕雨読(ヨ) 晴耕雨読(明)

晴耕雨読(教)

やさしい行書

見 聞 を  
広 め る

線の連続

身 戸 耳

見聞を広める(H)

中心  
い 楽 し  
声

〈筆順〉

ノ 白 白 水 楽 楽

十 十 十 十 十 十 声 声

楽しい声(ヨ) 楽しい声(明)  
楽しい声(教)

〈許容〉

白 はなす

止め

木 はね

止め

木 はね

発展

〔蘭亭序〕

曲 水

始筆の変化

曲

水

つながる気持ち

点画のつながりを意識しながら、和らぎのある運筆で書きましょう。

## ひらがなの字源 (385)

〔国語科書写の理論と実践〕  
全国大学書写書道教育学会編より転載

る	め	を	い	し	字源	字	形
留	女	遠	以	之	之	之	之
る	め	を	い	し	之	之	之
る	め	を	い	し	之	之	之

※字源については、異字体から変遷したものに\*印を付して()にその字体を記した。  
※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

〔12月4日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学2年

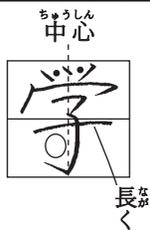
幼・小学1年

硬筆参考手本

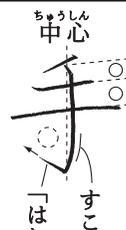
活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

支 部 名				
	を	かん		
段・級	イ	字		
	ラ	の		
学 年	ス	な		
	ト	り		
名 前	で	立		
	学	ち		
	ぶ			
	。			
	大元			
	だん			

支 部 名				
	わ	手		
だん・きゅう	を	を		
	つ	つ		
がくねん	く	な		
	ろ	い		
なまえ	う	で		
	。			



漢字を大きくかきましよう。



かたちをよくみて、ていねいにかきましよう。

学(ゴ)学(明)学(教)  
 ・ ・ ・  
 学(ゴ)学(明)学(教)

立(ゴ)立(明)立(教)  
 ・ ・ ・  
 立(ゴ)立(明)立(教)

字(ゴ)字(明)字(教)  
 ・ ・ ・  
 字(ゴ)字(明)字(教)

ろ(ゴ)ろ(明)ろ(教)  
 ・ ・ ・  
 ろ(ゴ)ろ(明)ろ(教)

わ(ゴ)わ(明)わ(教)  
 ・ ・ ・  
 わ(ゴ)わ(明)わ(教)

手(ゴ)手(明)手(教)  
 ・ ・ ・  
 手(ゴ)手(明)手(教)



〔12月4日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年

小学5年

支部名	よう	れ	海
段・級	に	あ	は
学年	暗	た	深
名前	く	り	い
	な	は	き
	っ	夕	り
	た	暮	に
	。	れ	包
		の	ま
	六		
	中居		
	かおり		

支部名	で	イ	も
段・級	活	ブ	う
学年	気	。	す
名前	に	商	ぐ
	満	店	ク
	ち	街	リ
	て	は	ス
	い	セ	マ
	る	ー	ス
	。	ル	
	五		
	大西		
	友美		

漢字の分間や「へんとつくり」の大きさに気をつけて字形を整えましょう。

**暮** (ま) 七つの横分間に気をつけよう

**包** (か) おれ 曲がり 接し方に注意

**海** (うみ) はねる 接し方に注意 (十画目の右はらいは八画目の横画の上に出る)

シシ 汎海海海

包 ( ) 包明 包 ( )

暮 ( ) 暮明 暮 ( )

草 草 草 草 草 草

漢字・カタカナ・ひらがなの文字の大きさに注意して書きましょう。

**街** (まち) 中心 等間隔

**商** (しょう) 中心 縦画は内側に向ける

気 (き) そる 方向と長さ

街 ( ) 街明 街 ( )

商 ( ) 商明 商 ( )

気 ( ) 気明 気 ( )

街 ( ) 街明 街 ( )

商 ( ) 商明 商 ( )



# これからの作品締切日と課題

令和6年1月号～6年3月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
心機一転	恵風(蘭亭序・臨書)	固い決意	百人一首	生きる力	たつ年	おせち	ね	1月8日	1月
炭を継ぐ		観察力	理想	新春	はつゆめ	ぞうに	もち		
暗中模索	先聖(孔子廟・臨書)	お手伝い	文庫	自由	よろこび	ゆびわ	む	2月7日	2月
梅林	美しい	世界旅行	道路	点画	図工	ポスト	やま		
千変万化	風雲(孔子廟・臨書)	希望の春	約束	発表	花だん	きずな	せ	3月10日	3月
つむ	わか	運動	周囲	美しい花	気	ビデオ	てん		

1月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

も	空
つ	は
づ	ど
き	こ
ま	ま
す	で

小2

ね	こ
が	れ
鳴	は
る	、
音	大
で	き
す	な
	か

小3

一	雪
面	が
が	ふ
銀	り
世	、
界	あ
で	た
す	り

小4

が	の	新
の	生	聞
っ	活	に
て	に	は
い	関	、
た	係	自
	の	分
	あ	た
	る	ち
	事	

小5

つ	ム	月
い	で	曜
て	音	日
話	楽	の
し	会	ホ
合	の	ー
っ	出	ム
た	し	ル
	物	に

小6

を	へ	昨
観	行	日
戦	き	、
し	サ	電
ま	ッ	車
し	カ	で
た	ー	競
	の	技
	試	場
	合	

中学生

に	東	京	五	輪	の	メ	ダ	ル	は	す	べ	て	回	収	し
	た	不	要	な	携	帯	電	話	や	小	型	家	電	、	ま
	さ														さ
	に	都	市	鉦	山	か	ら	の	産	物	で	あ	っ	た	。



# 書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

## 第81回 筆順の原則が通じない不思議な漢字



ある先生からこの漢字を見せられ、少々驚きました。「予」が、なんと逆さになっている漢字を知らなかったからです。実は、この漢字の筆順を尋ねられたのですが、即答を避けました。「縦画は上から下へ、横画は左から右へ」という大原則つまり、世間の常識でこの漢字の筆順を説くことができないと思われたからです。そして、この漢字に関しては世間の常識と思われる筆順の原則を、まったく真逆にした「右から左へ、下から上へ」が妥当かと思われたからです。

この漢字は「ゲン」と読み、普段使われていない二玄社の書道字典「新書源」の目次にも出ていたことでしたので、さっそく「ゲン」で索引を引いてみると、この見慣れない形の漢字が確かに載っていました。この項目のページを開くと、「幻」という大きな活字の下に小さい活字でこの漢字が記されていました。古典の碑刻や毛筆の名筆の書がいろいろと掲載されているのが書道字典ですが、逆転した「予」の古典の隸楷行草は残念ながらありませんでした。

そこでさらに深めるために、日本で一番漢字数が多く掲載されている諸橋轍次編『大漢和辞典』を引いてみることにしました。ここにこの漢字は「幻」と記されていました。今度は「幻」を引いてみました。すると「その字形は・予(あたえる)の字を反倒し、あたえる真似をしてあたえず、人をたぶらかす意にとる。」と記されていました。もう少しわかりやすく意識すると、「予(あたえる)」という字の上下を逆に書くことによって意味も真逆になり、あたえる真似つまり、あたえないという意味になる、つま

り、与えるつもりだったものが与えないこととなったので、この行為は「まぼろし」となったということです。

この逆さの「予」字は、「幻」字の小篆の字形をそのまま楷書にしたものであることがわかりました。この大漢和辞典に掲載されている字である以上、正式な漢字であることは間違いないのですが、(1) いったいいつごろできたものなのか。(2) 過去に一般社会で使われた事例があるのか。という疑問がわいてきました。

(1) についてですが、「説文では・予に作る」という記述があるので、許慎の『説文解字』が著された以前ということになります。篆書の種類であるこの漢字の「小篆」の形が存在する以上、秦の始皇帝の頃かと想定されます。しかしこの逆さの漢字は、隸書に変遷する時代以後になるとこの字形は用いられず、「幻」を多用するようになったと考えます。それは、先に述べたように一般的な漢字の筆順の原則から大きく逸脱していますので、手書きしにくかったからだと思います。よって、「予」が消え、「幻」字が世間では広く用いられるようになったと考えます。

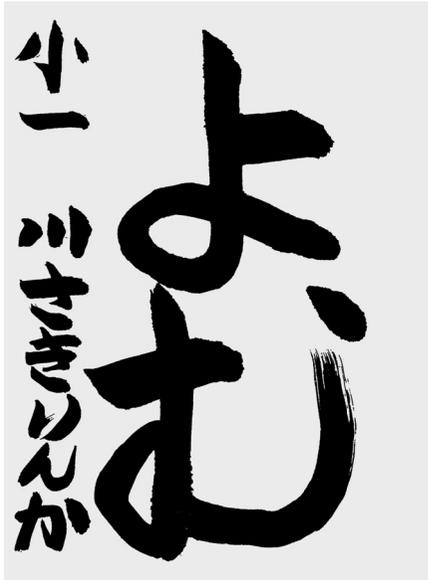
ところが清時代になり康熙帝が、『康熙字典』(現代の漢和辞典の大本となっているもの。日本の漢和字典もこの本を拠り所としている)の編纂を当時の学者たちに命じました。この字典は、省略され続けてきた楷書の字形を小篆の字形を根拠にして本来の正しい字形を探り、正すことが目的でした。よって篆書の形を基とした「予」は、編纂当時の学者たちに注目されるのは当然で、再び、古文獻から発掘され、字典に記載されるようになったものと思われるます。手で書くことの利便性よりも漢字の成り立ちの姿を優先した不思議な楷書の姿だと考えます。

今月のホープ



中三 黒澤未晴 (紅葉書塾)

整齐で美しい字形の九成宮の雰囲気  
を正確にとらえました。転折・はね・  
払いの筆法も見事で凛とした響きが  
伝わります。



小一 川崎鈴夏 (福山塾)

なまえ いちじいちじていねい こころこ か  
名前を一字一字丁寧に心込めて書  
いています。本文も正確な字形とバ  
ランス、素晴らしい作品に仕上が  
りました。

支部名	天心	段・級	六	氏名	山田遥香
	されて				
	いました。				
	防災訓練の様子				
	が特集				
	の中で				
	ニュース番組				

小六 山田遥香 (天心)

カタカナ漢字ひらがなをバランスよく  
纏め一字一字心配りが感じられる  
落ち着いた作品です。名前も立派  
です。

支部名	エベレストの最も険	段・級	五	氏名	牧田一成
	しいルートを選び、単				
	独登山にいどんだ。				

小五 牧田一成 (新栄)

何よりも行がすっきりと立っている  
ために作品全体が大きく明るく見え  
ます。字形も正確に書けていて立派  
です。

幼・1年

ね  
いなおかりん

もち  
小一 むらかみふゆ

2年

おせ  
二年 立見まゆ

にぞう  
小二 山田あい

3年

年たつ  
小三 川田ゆか

ゆはめつ  
小三 伊藤なみ

4年

生き力  
小四 山本洋

新春  
小四 山本けい

5年

一人首  
小五 山上希

理想  
小五 田中愛衣子

6年

固意  
小六 小坂望

観察力  
小六 木本有子

中学

恵風  
中三 増長志帆

一心転機  
中二 切替進

炭を継ぐ  
中二 い村一子

編集余録

○秋季昇段級試験の審査が終了しました。今回も大変多くの出品があり、一点二点審査員の先生方で丁寧に審査しました。「合格証」は団体の先生宛に送付いたします。楽しみにしてください。

○今月の中学生の毛筆課題は、東晋・王羲之の「303?~361?」の書「蘭亭序」です。

王羲之は、1600年以上も昔、四世紀の中国で活躍した政治家・書家です。楷書・行書・草書の三書体を芸術の域にまで高め、中国はもちろん、日本でも現代にいたるまで、様々な書家に多大な影響を与え、「書聖」と呼ばれました。

「蘭亭序」は、王羲之の代表作であり、古来、行書の手本として最も高く評価されています。王羲之の書はその他にも数多くの尺牘（手紙）などが伝わっています。しかし、王羲之自身が書いた真跡は、全て失われており、一つも現存していません。残されているものは、すべて拓本や模写された複製で、この「蘭亭序」もその一つです。

○10月号の月例審査で、中学生の毛筆の課題「九成宮醴泉銘」の作品が数多く寄せられました。今月号の王羲之の臨書にもぜひ挑戦してみてください。

（悠輝）